

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400951		
法人名	生活クラブやまがた生活協同組合		
事業所名	グループホーム結いのき		
所在地	山形県米沢市花沢町2695番地の4		
自己評価作成日	令和6年10月17日	開設年月日	令和16年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 12月 10日	評価結果決定日	令和 7年 1月 6日

(ユニット名 Aユニット)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活クラブやまがた生活協同組合が行ってきた「助け合い活動」たけろう所の理念を継承し、市民参加型福祉を実践している。建物の設計から運営に至るところまで「結いのきグループを支える会(自主ボランティア団体)」の協力を得て、より良い介護が継続できるよう共に歩んでいる。コロナウイルスが第5類に移行したことにより、また以前のようにご家族との面会の機会が増える事を願っている。終の棲家と考えている方には、家族、医師と相談しながら、看取りも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活クラブやまがた生活協同組合の助け合い活動の拠点「たぐろう所」の理念を継承し、各ユニットに提示していつでも職員が再確認できるようにしていることと、ユニット会議のレジメにも載せたりしている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年の夏も地域の子供神輿がホーム内を周り、入居者が子供達の元気な姿を楽しそうに見ていた。入居者がお賽銭なども子供神輿に協力し、参加していた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	生活クラブやまがたとして、結いのき協同センターで、認知症予防教室やいろいろなイベントを開催している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では各ユニットから入居者と入居者の家族も参加しホームの様子をお伝えし、意見を募り、検討課題としている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍より市の相談員さんの訪問は少なくなったが、訪問時は入居者の方々と歓談をさせていただいている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束適正化委員会(3か月に1度)を開催し各ユニットの状態を把握し、問題があれば話し合っている。職員研修も年2回の勉強会を実施し、適正なケアをしている。ユニット玄関は夜間以外極力施錠しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の精神状態と身体状態、行動を確認し職員間で理解し共有することで、虐待防止に繋げている。虐待防止委員会を設置しており、研修などを定期的に行い、日頃から意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議やミーティングなどを通して、ホーム長が権利擁護に関する知識などを「事例」として話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、入居者ご本人とご家族からの聞き取りの場を設け、十分な説明を行っている。解約時には、退所時にかかるその後の経費についてもご家族に確認しながら経費を決めている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や報告時に、入居者のご様子をお伝えし要望なども伺っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会を開催し、家族の意見などを聞き、それらを運営に繋げている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく職員の勤務希望を反映し、有休休暇が取れるように配慮している。介護職員処遇改善加算なども適正に支給している。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の少ない職員にはレベルアップに繋がる研修に積極的に参加できるよう勧めている。研修委員会が研修会の情報を入手し、ほぼ全員が受講できるような体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流は無かったが、リモート研修を通じてネットワーク作りを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前の訪問調査で、本人のこれまでの生活、現在困っていることまで把握し、プランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のサービス担当者会議を通し要望を聞き、応じられる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要となったサービスを検討し、利用して頂いている。医療機関とも連携し必要な支援が出来るよう努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活スタイルや能力も考慮し、掃除や料理の準備等、出来ることをお願いし、共に協力し暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況報告等が一方的なものにならないよう配慮している。また、必要な物品をお願いする時には差し入れを頂いたり、共に本人を支えてもらっている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍における制限は未だあるものの馴染みの店への買い物の支援をしたり、系列のグループリビングで行われる季節のイベントへの参加を支援し、昔馴染みの人達との関わりを持って頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の状態や相性等も考慮し、職員が間に入りコミュニケーションの助けになる様努めている。一人で過ごすのが好きな方にも配慮し、孤立しない様になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族にも相談窓口を開放している為、フォロー出来る体制が出来ている。生活クラブの組合員として関係が継続している家族もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不安の訴えがあった際はすぐにゆっくり傾聴し出来るだけ思いに添えるよう対応している。意思表示の困難な方に対しては常に表情や発語から推察し心地よく過ごせるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントの段階でご本人やご家族からこれまでの暮らしぶりを詳しく何うとともに使慣れた家具や私物を持って来て頂き、不安感を軽減できるよう居室を整えている。居間のテーブルにも好きな物を置くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らし方は日々の体調や生活スタイルを尊重している。また、過度な援助を控え生活力や出来る事が無くならない様支援している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや毎月のミーティングで一人一人の状況の共有と課題を検討している。3か月毎のモニタリングと半年毎に介護計画の見直しを行い変更の際はご家族に説明し同意を得ている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のバイタル、食事、排泄、睡眠状況や言動などを詳しく記録し職員間で共有し変化を見逃さないよう留意し統一したケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方に生活圏を持っている方もおり、連絡、面会など都度柔軟な対応をしている。郵便で承諾を得る時は日にちに余裕を持って頂いたり、市役所からの書類等は転送をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の子供神輿の際にホームに周って頂き子供達との交流が来ている。近隣の方に外周りの草刈りをして頂きホーム周りの散歩が安全に行えている。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月1回の往診の他に体調に変化が見られた際は、電話やFAXで相談し対処や受診の指示を受け早期回復を図っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤日に一人ひとりの状態を報告し、出勤日でない日も電話で必要なアドバイスを受けている。皮膚トラブルの処置やリハビリ体操の指導を受けたり、受診が必要な状態か否かの相談も行っている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかにホームでの生活情報を提供し、より良い治療を得た上で出来るだけ生活状況が変化なく退院出来るよう連絡を取っている。体調がおもわしくない時は、主治医に診てもらい入院の判断後は総合病院へ行けるように調整してもらっている。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に応じてご家族と一緒に主治医からの説明を受けて終末期の理解を共有している。また、ご家族の意向を伺いながらターミナルケアの方針を作成しその後の方向性を共有し、ホームでの穏やかな看取りが叶うよう主治医、ホーム看護師の指導を受けながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の講習会に参加し、職員全員が救急対応やAEDの使い方を学んでいる。緊急対応時のフローチャートや、急変が予想される方に対しては居室にご家族への連絡が速やかに行えるよう準備している。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を年2回行い、消防署や担当業者の指導を受けている。また、水害や地震を想定した訓練を年1回を目標に行っている。夜間を想定した訓練も行い地域の方に見学してもらった。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、今までの人生や環境を考慮して、一人ひとりにあった声掛けを行うよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、入居者の希望や思いを引き出せるような会話を心掛けている。なかなか思いを口に出来ない方には、時間を掛けて傾聴し、自己決定出来るように支援している。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調、生活のリズムを大切に居室で過ごしてもらい、希望に合わせて食事を運ぶこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を選ぶ際、一緒に選んでももらったり、自己決定できない時には、2択で選んでもらう等、工夫している。定期的に散髪も対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳時にはメニューの説明をし、食事が楽しめるよう心がけている。刻みやミキサー食の方には安全で美味しく食べれる形態で提供している。また、一人ひとりの好みに配慮し、代替品等も出来るだけ提供出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に摂れている食事量、水分量を把握し、不足分は栄養補助食品を提供し補っている。また、嚥下状態に合わせた食事の形態、水分にトロミ調整をしている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を清潔に保つため、歯磨きやうがいを行っている。声掛けや介助をすることで、本人の力に応じたケアをしている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけ入居者の排泄リズムに合わせたトイレ誘導を行い、トイレでの排泄をうながしている。出来ないところを介助することで自立に向けた支援も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を積極的に摂ってもらったり、ヨーグルトを毎朝飲んでもらう等、スムーズな排便につながるよう対応している。自力排便がみられない時は、看護師に相談しながら、下剤や調整剤を使用しコントロールをしている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の気持、体調等にに合わせて入浴して頂いている。ゆったりと入ってもらえるように支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣、体調、気持ちに合わせて声掛けを行い、疲れ等に気を配りながら支援している。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	結いのき独自の「お薬アルバム」を使用して、入居者一人ひとりに合わせた服薬介助を行っている。また誤薬には注意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しやたたみ方、食器拭きなど出来る入居者には無理しない程度でお願いしてお手伝いをしてもらっている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にホームの外を散歩したり、季節を感じてもらえるように居室に花を飾ったりしている。本人の希望を聞いて買い物に行くなど支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者は、自分で管理するのが困難な為、その都度ご家族にお願いしている。管理出来る入居者はお店に行き値段を気にしながら買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの手紙やハガキを代読したり、入居者が希望する時、電話や連絡がつくようにして頂くことがある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間に誕生会や行事の写真を展示している。また、季節の花を居間に飾ったりしている。居間や廊下の動線には物を置かず歩き易くしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格、社会性、認知度などを考慮した、少しでも会話が弾むように食席を決めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れた物を居室に備えることを、ご本人や家族と話し実践している。基本はベッドで就寝して頂くのだが、ご本人の希望により布団を床に敷いて就寝している方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、脱衣室には、適所に手すりを備え入浴時は滑り止め、椅子などを置き安全に注意している。トイレも滑り止めを敷いている。ベット柵は入居者に応じてL字柵をつけ、少しでも自分で移乗できるように工夫している。		